

災害発生時対応マニュアル（学生編）

災害発生直後は、まず各人、身の安全を守ることを最優先とし、できる限り火の始末等、二次災害の防止処置を行い、避難できる状況になった後、速やかに指定した避難場所等、安全な場所に避難します。

I 災害発生時の対応

1. 地震発生時の対応（学内）

地震発生時の三原則		
① その場に合った身の安全の確保	② すばやく火の始末	③ 非常脱出口の確保

(1) 発生直後（場所別）

○研究室、事務室、教室等にいるとき

- ① テーブルや机の下に身を隠し、落下・転倒物(書棚、黒板、蛍光灯等)から身を守る。
- ② ドア付近にいる人は、ドアを開け出口を確保する。
- ③ 窓際にいる人は、窓ガラスの飛散を防ぐためにブラインドやカーテンを閉め、急いで窓際から離れる。

○実験室にいるとき

- ① すぐに火の始末をし、電気器具などの電源を切る。揺れが大きく火の始末が不可能な場合は、まず身の安全を図る。
- ② 火災が発生した場合、揺れがおさまってから適切な消火器で初期消火活動を行う。消火不能の場合は、部屋のドアを閉めて速やかに安全な場所に避難する。
- ③ 二次災害防止のため、危険物の取り扱いに十分注意する。

○廊下にいるとき

- ① 壁が崩れてくる恐れがあるので、衣服や持ち物などで頭を覆い、速やかに近くの教室等部屋の中に避難して机の下にもぐる。
- ② 近くの教室等部屋に入れない場合は、落下の恐れがあるものの下から離れ、衣服や持ち物などで頭を覆ってかがみこむ。

○エレベーターに乗っているとき

- ① 全ての階のボタンを押して、停止した階で降りる。
- ② 途中で停止した場合は、非常ボタン又はインターホーンで外部に救助を求める。

○図書館、体育館、食堂等にいるとき

- ① 落下・転倒の恐れがある物（本棚、ロッカー、自動販売機など）から離れる。
- ② 使用中の電気器具の電源を切る。

○屋外にいるとき

- ① 建物やブロック塀等倒壊の恐れのあるものから離れた空き地等に避難する。

○自動車を運転中のとき

- ① 周囲の状況を確認しながら道路の左側に車を寄せて停止する。
- ② 揺れが収まるまで車外に出ず、ラジオ等で情報収集をしてから行動する。
- ③ 緊急車両の妨げになる恐れがあるので、車のキーはつけたまま避難する。

(2) 揺れが収まったら

① 避難行動

- ・ 余震に注意しながら、指定された一時避難場所(別紙 1 (P6~7))へ移動する。
- ・ エレベーターは使用せず、落下物に注意し、校舎等の建物から離れる。
- ・ 障がいのある学生や教職員等が近くにいる場合は、避難誘導をサポートする。

② 安否報告、安否確認

- ・ 避難場所到着後、自身の安全が確保でき次第、安否確認システム「ANPIC」で安否状況を報告する。
- ・ 研究室や事務室単位等でお互いに安否を確認し合う。

2. 火災発生時の対応（学内）

火災発生時の三原則		
① 早く知らせる	② 早く消火する	③ 早く避難する

(1) 早く知らせる

- ① 「火事」ということを大声で叫び、近くの人に早く知らせる。
- ② 火災報知器のボタンを押す（ベルが鳴り、守衛所等に火災表示が出る。）
- ③ 文京地区は守衛所（0776-23-0503）、松岡地区は防災センター（0776-61-8595）に連絡を取り、火災の場所と状況を知らせ、消防署等への通報を依頼する。
- ④ 万一、守衛所等に繋がらない時は、発見者が消防署（119）へ直接通報する。

(2) 早く消火する

- ① 身の安全を守るための脱出口を確保してから、消火器または屋内消火栓からの放水で初期消火を行う。ただし、危険物によっては、注水により新たな火災の発生または延焼が拡大する恐れがあることに注意する。
- ② 消火器で消火できる火災の限界は状況によるが、壁の内装材が燃えている程度が限界で、天井が燃えはじめると消火は難しい。

- ③ 消防隊が到着した場合には、火災の延焼状況を報告するとともに、可能な範囲で消火活動に協力する。

(3) 早く避難する

- ① 初期消火の手段で手に負えないと判断された時は、速やかに安全な場所に避難する。
- ② 部屋から避難する際に内部の人がいないことを確認し、退室等には出入口の扉を閉める。
- ③ 煙を吸わないように、濡れたハンカチ等で口・鼻を覆い、姿勢を低くして避難する。
- ④ 煙で前が見えない場合は、壁に手を当て方向を確認しながら避難する。
- ⑤ 一度避難したら再び戻らない。

3. 風水害発生時の対応

風水害発生時の原則	
① 気象情報に気をつける	② 避難及び安全の確保

(1) 気象情報に気をつける

- ① 最新の気象情報に注意しながら、正確な情報を入手する。

(2) 避難及び安全の確保

- ① 大木やブロック塀等倒壊の恐れのあるものから離れる。車やバイク等も必要に応じて移動させる。
- ② カーテンやブラインドにより窓ガラスの飛散に備えるとともに、窓ガラスから離れる。

4. 豪雪時の対応

豪雪時の原則	
①気象情報に気をつける	② 避難及び安全の確保

(1) 気象情報に気をつける

- ① 気象情報に注意しながら、正確な情報を入手する。

(2) 避難及び安全の確保

- ① 大雪、暴風雪等が予想される場合は、地吹雪等でホワイトアウト現象が発生し、視界が真っ白になり何も見えなくなる場合があるので、不要不急の外出やできる限り車の運転を控える。

5. その他の災害時の対応

(1) J-ALERT（弾道ミサイル発射時）

- ① 直ちに避難：警報が鳴ったら、数分以内に着弾の可能性があるため、時間的猶予はない。

- ② 屋内へ：頑丈な建物や地下へ逃げ込む。適当な建物がない場合は、物陰に伏せて頭部を守る。
- ③ 窓から離れる：屋内にいる場合は、窓のない部屋へ移動する。

(2) 自宅、学外等での被災

- ① 前記1～2を参考に、現地の自治体や施設の指示に従い、身の安全を確保する。
- ② 安全確保後、速やかに大学へ安否を報告する。
- ③ 無理して通学せず、大学に連絡あるいは大学のホームページ等で情報を確認する。なお、休講については、安否確認システム（ANPIC）、大学ホームページ等を参照すること。）

II 災害発生時の連絡

1. 災害発生時の安否報告

大地震等の災害時に、大学から安否確認システム（ANPIC）により安否確認の連絡があった際には、当該システムにより状況を報告すること。

また、緊急時には安否確認システム（ANPIC）から休講等の連絡を行うこともある。

2. 休講等の連絡

休講等の連絡は、安否確認システム（ANPIC）及び大学ホームページ等により行うので確認のこと。

3. 家族への連絡方法

家族との連絡方法および待ち合わせ場所について、日頃から確認しておくこと。

下記は、大災害発生時に安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合に提供されるサービスで、あらかじめ指定した家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールで知らせ、インターネットからも安否情報の確認が可能。

- NTT 災害用伝言板：インターネットで連絡・確認
伝言の登録・確認
 - ① <https://www.web171.jp/>（web171）へアクセス
 - ② 登録または確認したい電話番号を入力 ※数字のみ「-」なしで入力
 - ③ 「ひらがな氏名」「安否」「伝言」を入力して「伝言を登録する」をクリック
確認の場合は、伝言を確認する。
- NTT 災害伝言ダイヤルサービス：電話で連絡・確認
被災地内の固定電話のみに提供されるサービスで、被災地内の固定電話に対する録音・再生は携帯電話からでも利用可能。
 - ① 伝言の録音・再生
 - ② 「171」へ電話をかけるとガイダンスが流れる。
録音は「1」をダイヤル。再生は「2」をダイヤル。
市外局番+固定電話の番号（NTTが被災地と定めたエリア内）※ 詳しいサービス概要や、利用方法はNTTのホームページを確認のこと。

- 携帯電話各社による災害用伝言板の利用方法は、あらかじめ加入会社のホームページで確認のこと。
ドコモ： https://www.docomo.ne.jp/info/disaster/disaster_board/
au： <https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/>
ソフトバンク： <https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/boards/>

Ⅲ 正確かつ迅速な情報収集

正確な最新の情報をチェックする。

- ▼ 福井県防災ネット https://www.bousai.pref.fukui.lg.jp/dis_portal/index.html
- ▼ 内閣府防災情報 <https://www.bousai.go.jp/>
- ▼ 気象庁・防災情報 <https://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html>
- ▼ みち情報ネットふくい <https://www.hozen.pref.fukui.lg.jp/hozen/yuki/>

Ⅳ 日頃の準備

1. 日頃の準備と確認

被害を軽減するために、どんな備えが必要か考えておく。

- 避難場所の確認（大学付近および自宅周辺等）
- 家族や知人との連絡方法と場所の確認
- 災害伝言サービスの確認と登録、具体的な情報収集手段の確認等
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認（災害時徒歩 約2.5km/h）
- 転倒防止対策や緊急アイテムの確認 等々

2. 緊急避難アイテム

自宅が被災したときは、安全な場所に避難し避難生活を送ることになるため、非常時に持ち出すべきものをあらかじめリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるようにする。

非常用持ち出しバッグの内容の例

- 飲料水、食料品（カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど）
- 貴重品（預金通帳、印鑑、現金、マイナンバーカードなど）
- 救急用品（ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など）
- ヘルメット、防災ずきん、マスク、軍手
- 懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池、携帯電話の充電器
- 衣類、下着、毛布、タオル
- 洗面用具、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、携帯トイレ

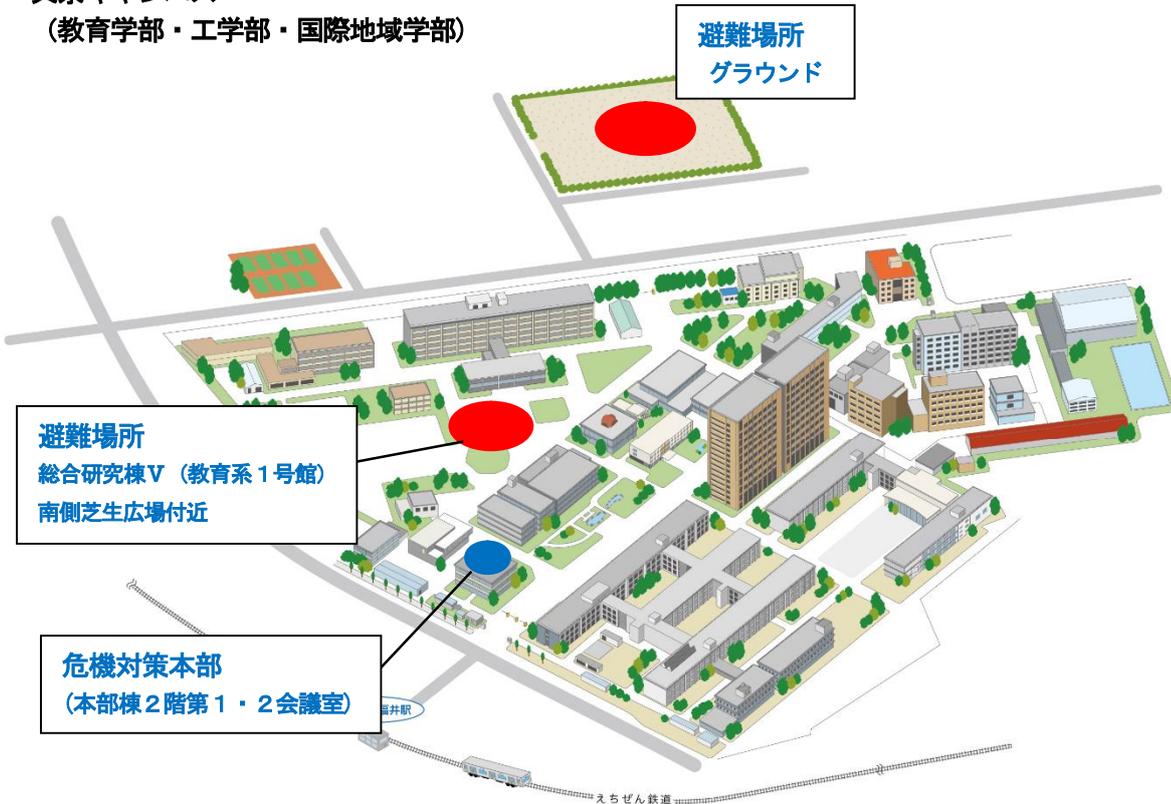
別紙 1

一時避難場所一覧

キャンパス・地区	一時避難場所
文京キャンパス	総合研究棟V（教育系1号館） 南側芝生広場付近、グラウンド
松岡キャンパス	体育館前駐車場、病院第2駐車場、グラウンド
敦賀キャンパス	附属国際原子力工学研究所 南側駐車場

避難所マップ

文京キャンパス
(教育学部・工学部・国際地域学部)



松岡キャンパス（医学部）



敦賀キャンパス

福井大学法人等施設実態報告書（様式2）

配置図

